

# ペットライフ

mail:bunka1@ma.kitanippon.co.jp



まずだ動物病院長  
(高岡市中曾根)  
増田 和明

テレビや新聞などで車椅子に乗ったワンちゃんを見たことがある方もいるかと思えます。重度の椎間板ヘルニアを発症し、適切な処置を受けないと、最悪の場合、下半身まひになってしまうことがあります。また、重度の首のヘルニアを発症すると首から下の四肢全てがまひし、寝たきりになってしまっ子もいます。

椎間板は、背骨と背骨の間にあるクッションのようなもので、何らかの力が椎間板に加わり、つぶれて中身が飛び出した状態のことを椎間板ヘルニアといいます。椎間板の上には脊髄という神経が通っているため、椎間板の中身が飛び出し、脊髄を圧迫すると、痛みやまひが生じます。初期症状は

## 犬・猫の椎間板ヘルニア



椎間板ヘルニアで下半身まひになったトイプードル(写真上)。治療によって歩けるようになった(同下)



完全に予防するのは難しい病気ですが、初期の症状を見逃さず安静にすることや、食生活に気を付け、過度な肥満にさせないことは自宅でもできることですし、とても重要です。

アのタイプ、経過などにより異なります。当院には毎日のように椎間板ヘルニアのワンちゃんが来院しますが、90%以上の子は手術も

でなく全国各地から来院します。そのような子たちも、足をつねって痛みを感じられれば、適切なタイミングで脊髄を圧迫している椎

## 適切処置で元気に歩行

痛みだけで、動きたがらず、抱いたときに「キャン」とほえたり、段差を嫌がったりしますが、悪化すると足に力が入らなくなりま

す。少し怖い話をしましたが、医療も日々進歩し、手遅れになる前に適切な処置をすればほとんどの子は元気に歩けるようになります。治療法は重症度や椎間板ヘルニ

必要なく、薬と安静だけで良くならない。完全に足がまひして歩けない子や、改善が見られない子は手遅れになる前に詳しい検査をします。検査も特別な機器などは必要なく、脊髄造影検査で確実に診断できます。当院では、年間100匹以上の歩行困難な重症な子が、北陸だけ